

第3回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録（要旨）

○日 時：令和元年12月26日（木） 10：00～11：30

○場 所：八幡市役所 分庁舎2階 会議室A

○内 容：

1 開会

2 協議・報告

(1) 第1期総合戦略の達成状況を踏まえた評価等について【資料1】

(2) 第2期総合戦略の策定について【資料2・3、参考資料1・2】

(1) 第1期総合戦略の達成状況を踏まえた評価等について

委 員：第1期総合戦略の達成状況を踏まえて、今後の方向性を決定し、第2期総合戦略を策定する位置付けにしたい。それを踏まえたうえで、第1期総合戦略をどのように評価するか意見を聞きたい。

委 員：「子育てが楽しいと思う保護者の割合」の評価内容にて、要因分析が具体的にできていないため、次期戦略の方向性とするには中身が薄い印象を受ける。どのようなことが楽しくない要因となっているかを問うなど、細かく分析する必要があるのではないか。

また、八幡市の産前・産後支援員に登録しているが、あまり活動ができていないと感じる。広報を積極的に実施するなどして、事業を活用することで解決につながるのではないか。

事 務 局：ご指摘の通り、分析が不足していると感じる。担当部で分析を再度行い、どこに重点をおくかを次期戦略に向けて検討する必要があると考える。

委 員：少しの改善で効果が出るのか、アンケートがうまく取れていないのか、アンケート結果に対し積極的にアプローチができていないのかを担当部署で分析頂くとともに総合戦略でも考えていきたい。

委 員：「将来への夢や目標を持つ子どもの割合」で、全国や他市と比較して評価することは可能なのか。

事務局：この調査は八幡市内の小学校を対象とした学校満足度調査であると聞いており、他市と比較が可能であるか、確認を行う。また、学校満足度調査は全国で行われているかどうかあわせて確認を行う。

委員：中学生の学力が回復しないことについて、小学校低学年で頑張らないと学力が低下していくことから、低学年に向けた対策をしないとその後の学力で他の市町村と差が出てくる。5・6年生で頑張っても遅いと思うので、1年生から実施した方がよい。

事務局：中学校からの支援として、低所得者を対象としたスタディサポート事業を実施している。

委員：スタディサポート事業は効果検証をしているのか。

事務局：効果が出ていると考えている。スタディサポートを受けた生徒は全て希望校の高校に通っていると聞いている。

委員：四條畷市では、カラコロ体操が話題になっている。カラコロ体操は筋力アップに効果があり、座った状態でできる体操である。市内のあらゆる場所にインストラクターが配置されており、全国からレクチャーを受けに来るほど話題になっている。

事務局：八幡市では、今年度1000人以上が参加している、やわた未来いきいき健幸プロジェクトにて、万歩計と体組成計を活用した取り組みをしている。

委員：希望された方だけに万歩計と体組成計を活用した取り組みをさせるのではなく、体操教室に参加されている方などを対象とすることで、体操教室での成果を把握できることから、さらにプロジェクトを活用できるのではないかと。

事務局：体操教室に参加されている方も「やわた未来いきいきプロジェクト」に参加していただいていると思うが、そのような意見があった旨、担当課へ伝える。

委員：まちの魅力度において、全国の自治体が魅力向上に向けて観光に力を入れはじめている。同じ力の入れ方をすると、市の規模や活力がある自治体が優位になるため、より工夫をした事業を行う必要がある。

委員：転出入者数の差では、暮らしやすい町だけではなく、仕事場としての町である必要がある。どのような工場・施設等を誘致して、若い人が来てくれるかが重要だと思う。

事務局：この調査は全国の方に対してインターネット調査を行ったものであり、全国からの視点で八幡市を客観的に見た順位である。最近では、背割堤がお花見スポットとして全国一位であり、石清水八幡宮参道ケーブルの車両が新しくなった。しかし、石清水八幡宮駅前がさみしいと感じる部分があるなど、お金を使っていただけける場所が少ないことが課題である。

委員：1ページ「子育て世帯の転出入者」と9ページ「転出入者数」はどのように考えればよいのか。29年度をみると子育て世帯が371人、転出入者数が159人であり、大きく人数が離れているのはなぜか。

事務局：「子育て世帯の転出入者数」は20歳から49歳までの値をとっている。「転出入者数」はすべての年齢層である。転入の方と転出の方の差になるので、世代によって逆転しているため差が発生してくる。

事務局：男山団地再生事業のなかで、UR都市機構の子育て割引や自分でDIYができるといった特徴から、転入者が若干増えてきている。また、外国の方も増えてきており、八幡市の場合はベトナムの方が増えている。

委員：ベトナムの方をはじめとして外国の方が空き家に入居している。

委員：スーパーで外国の方を見かけたとき、集団でおられると外国人が怖いと感じてしまうこともある。

事務局：男山では、自治会を中心に外国の方とコミュニティを深める取組を実施している。

委員：将来への夢や目標を持つ子どもの割合で、小学校の頃は将来に対して夢があるが、中学生では現実的になる。

委員：経済が成長していた時は徐々に夢も膨らんでいたかもしれないが、今は成長しないため、夢が小さくなっているのではないだろうか。

事務局：中学生が小学生に比べて低い実績値であることについては、中学校の学力診断テストと相関関係があると考えます。

(2) 第2期総合戦略の策定について

委員：第1期総合戦略の達成状況を踏まえて、第2期総合戦略の策定について意見を聞きたい。国・府の新たな視点における、地域の経済社会構造全体を見た地域のマネジメントが具体的にどのようなになっているのか。

事務局：現時点では具体的には示されておらず、行動指針等に反映する予定である。

委員：周辺環境を踏まえた地域マネジメントをする方が良いのではないかと。八幡市は歴史的に大山崎と一体化していたので、流れ橋で大山崎のモノを売るなど交流をしても良いのではないだろうか。八幡市を訪れた方が八幡を知ろうとした場合に、そのような場所がなく、駅前の観光パンフレットをもらうしかないため、ビジターセンターや資料館といった八幡市を知る場所があれば良いのではないかと。

委員：自治会で健康ウォーキングをやろうとしたときに、京阪電車がチラシで八幡市を紹介していた。自分たちの知らない場所が多く掲載されていた。民間事業者とタイアップしてもよいのではないだろうか。

委員：石清水八幡宮と流れ橋の距離が離れているなど、市内のポイントとなる施設が点々としていることが気になる。周回できるコースツアーがあったほうがよいのではないかと。

委員：観光にこだわるわけではないが、市外の人に八幡市を知ってもらうためには、観光が一番である。

委員：四季彩館の場所が分かりにくい。自転車の利用状況を調べるなど、観光客にお金を使わせる方法を考える必要がある。四季彩館やさくら出会い館を観光客に広めるべきではないかと。

委員：過去に京都府のホームページを見ているとタケノコの町として紹介されていたことから、乙訓地域や京都市から南へ御幸橋を渡っていただき、八幡市を見てもらうのはどうか。

事務局：本市は、お茶をテーマに京都府と連携し、広域的な観光誘客等に取り組みを進めている。

委員：定年の引き上げなどの状況をふまえると、高齢者の働き場所をつくることも重要ではないかと。